

そして未来へ。

総合計画「献上桃の郷こおり未来躍動プラン」を策定

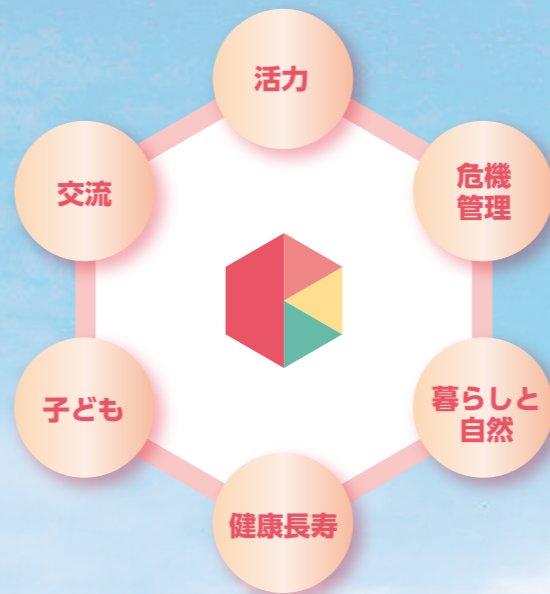
町では、令和4年度から向こう10年間を見据えた総合計画「献上桃の郷こおり未来躍動プラン」を策定しました。将来像や基本計画の実現に向けて、さまざまな施策を展開していきます。

将来像・10年後の理想の町の姿

「みんなが幸せを実感できる
元気なまち こおり」

「住み続けたいまち
住みたいまち こおり」の実現

6恵6幸こおり未来プラン



基本構想における6つの方針

町民との共創と効率的な財政運営

- 1 活力と賑わいに満ちたまちづくり
- 2 危機管理に備えた安全安心のまちづくり
- 3 暮らしと自然が調和した豊かさを実感できるまちづくり
- 4 健康長寿で元気なまちづくり
- 5 子どもを大切にすまちづくり
- 6 交流で絆を育むまちづくり

重点プロジェクト

分野横断的な取り組み

- 1 「21世紀の追分」プロジェクト
- 2 「安全・安心なまち」推進プロジェクト
- 3 「環境に優しいまち」推進プロジェクト
- 4 「健康で生き生きと暮らせるまち」推進プロジェクト
- 5 「桑折っ子」育成推進プロジェクト
- 6 「心地いいまち」推進プロジェクト

地方創生 SDGs推進の町

総合計画では、世界の共通目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」の理念に基づき、さまざまな施策を展開していきます。



「21世紀の追分」から全国へ町の魅力を発信



伊達桑折インターチェンジや桑折ジャンクションが完成したことで、さらに県内外や都市部へのアクセスが向上しました。交通網が整う一方、豊かな自然も多く残り、緑に囲まれながらも快適な暮らしを満喫できます。

「21世紀の追分」に 地理的素質を生かし

令和3年に開通した、東北中央自動車道「相馬福島道路」。常磐自動車道(相馬市山上)と東北自動車道(桑折町松原)を結ぶ約45kmの自動車専用道路です。東日本大震災からの復興を図る重点プロジェクトとして、被災地と内陸部の連携強化を目的につくられました。かつて奥州・羽州の分岐点「追分」として栄えた桑折宿のように、浜通り・宮城・山形・東京各方面への結節点である桑折ジャンクションを「21世紀の追分」として、この地

理的優位性を最大限に生かす取り組みを進めていきます。

伊達桑折インターチェンジや桑折ジャンクションが出来たことで、県内外へのアクセスが向上しました。また、インターチェンジ周辺に大型複合商業施設の出店(2024年冬開業予定)が決まるなど、本町に追い風が吹く中、流れに乗ってポテンシャルの高さを十分に生かし、多くの人を呼び込む仕組みをつくっていきます。

今後も企業誘致により、町内の国内総生産額増加や雇用創出による人口増加、所得の向上、交流・関係人口の創出につなげていきます。

未来を担う子どもたちの成長を町全体で応援



職場や家庭など、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常となる今、社会を生き抜く力を育むため、児童生徒一人一台タブレットを配布し、未来を見据えた新たな学びを推進していきます。

妊娠から子育て期まで 切れ目なく支援

未来を担う町の宝である子どもたちが、豊かに伸び伸びと成長しているよう、安心して子育てができる環境づくりを進めています。妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援として、出産時の育児用品のプレゼントや、幼稚園・小中学校の制服贈呈のほか、給食費について、幼稚園は無料、小中学校は半額助成するなど、手厚い支援が充実しています。さらに、子育て世代包括支援センター「すくすく」では、出産前や子育て中のお父さん、お母さ

んなどを対象に、さまざまな支援を行っています。

また、学校現場では、教育理念である「人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、たくましく未来を切り拓いていく桑折っ子」の育成を目指し、幼・小・中一貫した方針のもとで、家庭・地域とも連携しながら、教育・保育を行っています。情報社会に対応するため、県内他市町村に先駆けて、平成22年度に町内小・中学校の各教室へ電子黒板を設置。令和2年度には児童生徒に1人1台のタブレットおよび通信ネットワークを整備し、新たな学びを展開しています。